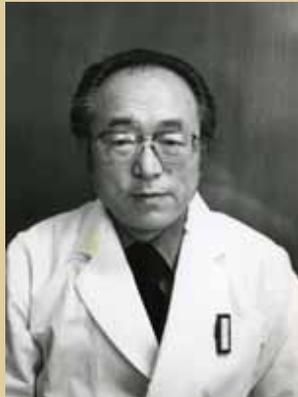


第10回日本臨床細胞学会秋期大会(1971年)

Since 1956

1971年11月27日 全共連ビル (東京都)



学会長 天神美夫

学会トピックス

教育講演	吸引スミア	司会: 田嶋基男 先生
教育講演	再生と化生	司会: 高橋正宜 先生
特殊な症例		司会: 金子 仁 先生, 藤井純一 先生



1971年、こんなことがありました

細胞診指導医数 141名

細胞検査士数 194名

・第4回細胞検査士資格認定試験 (97名受験57名合格)

- ・ 7月 環境庁発足.
- ・ 10月 沖縄協定批准に反対の第一波全国統一行動. 600カ所150万人参加
(11. 19第二波, 53万2000人参加.
日比谷松本楼全焼).

写真提供: 天神美夫先生

第11回日本臨床細胞学会秋期大会(1972年)

Since 1956

1972年11月22日 御堂会館 (大阪府)

学会トピックス



学会長 服部正次

教育講演 集検と細胞診

- A. 自己採取スメヤの細胞所見 天神美夫 先生
- B. 乳癌集検のための細胞判定基準 田嶋基男 先生

教育講演 CytologyとBiopsy

- A. 子宮 頸癌 野田起一郎 先生 内膜癌 滝 一郎 先生
- B. 消化器 胃 信田重光 先生 腸 田村 宏 先生
- C. 肺癌 高橋正宜 先生
- D. リンパ節 栗田宗次 先生



前列: 左から成瀬先生 田村先生 服部先生 松田先生 野田 定先生

岸上先生



奥本氏 竹田氏 藤永氏 野田 定先生 横山氏
津崎氏 CatherineM. Keebler氏 山本氏

南雲氏



当時の大阪府立成人病センター細胞診断科スタッフ一同

松田先生

服部先生

野田 定先生

細胞診指導医数 155名

細胞検査士数 272名

1972年、こんなことがありました

・12月 第5回細胞検査士資格認定試験が実施される。

- ・ 8月 森永乳業, 枕素ミルク中毒事件の責任を認め, 未確認児にも救済補償決定.
- ・11月 中国政府寄贈のパンダ2頭, 上野動物園で公開.

写真提供: 大阪成人病センター 南雲サチ子氏

第12回日本臨床細胞学会秋期大会(1973年)

Since 1956

1973年11月23日 日本都市センター (東京都)



学会長 高橋正宣

学会トピックス

シンポジウム 悪性リンパ腫およびその周辺領域における細胞診 司会:木村禧代二先生,高橋正宣先生
サイトスクリーナー研究部会・教育講演 異常妊娠及び産褥に関する細胞診 阿部 穰先生
教育講演 ヘルペスウイルス感染の細胞診 武田 敏先生,大内義智先生
教育講演 腫瘍とその機能
性器のホルモン産生腫瘍と依存性腫瘍 西谷 巖先生
カルチノイド 服部正次先生
へパトーマ 佐々木憲一先生



日本臨床細胞学会シンボルマーク決定

山田 喬先生 創作



1973年、こんなことがありました

細胞診指導医数 167名
細胞検査士数 363名

- ・ 8月 日本最初の第3回国際細胞学会Tokyo tutorial開催(ホテルニューオータニ)。
- ・ 8月 日本最初の国際細胞検査士資格認定試験が実施される。(東京,ホテルニューオータニ,184名合格)。
- ・ 12月 日本臨床細胞学会シンボルマーク決定(山田喬,M.D.創作)。
- ・ 12月 第6回細胞検査士資格認定試験が実施される。

- ・ 7月 カンフー映画のブルース・リー,香港で急死。
- ・ 10月 山梨県で幼児の大腿四頭筋短縮症多発,注射が原因と問題化。
- ・ 10月 江崎玲於奈,ノーベル物理学賞受賞。
- ・ 10月 オイルショック,国際石油資本5社,日本への原油供給約10%減を通知,トイレットペーパー・パニック。

写真提供:岐阜大学腫瘍病理 高橋京子氏

第13回日本臨床細胞学会秋期大会(1974年)

Since 1956

1974年11月16日 名古屋市民会館 (愛知県)

学会トピックス



学会長 芳賀圭吾

会長講演	名古屋における細胞診の回顧	芳賀圭吾 先生
シンポジウム	細胞診からみた予後と治療の選択	司会:天神美夫 先生, 服部政次 先生
シンポジウム	新しい分野での細胞診	司会:信田重光 先生, 高橋正宣 先生
サイトスクリーナー研究部会・教育講演	婦人科領域における放射線療法 of 解説	久保久光 先生
サイトスクリーナー研究部会・教育講演	細胞診に適用される染色体分析の方法論	浦部幹雄 先生
サイトスクリーナー研究部会・教育講演	大気汚染と喀痰細胞診	吉川 敏 先生, 人見加久子 先生



芳賀先生



日赤なごや新聞

~ 第十三回日本臨床細胞学会を主催して ~

1974年、こんなことがありました

細胞診指導医数 181名

細胞検査士数 439名

- ・ 7月 第2代日本臨床細胞学会会長 福田 保 逝去。(7月11日,享年82歳)
- ・ 7月 第2代日本臨床細胞学会学会長代行に水野潤二,M.D.就任.
- ・ 12月 第7回細胞検査士資格認定試験が実施される.

- ・ 9月 台風16号で64年ぶり多摩川決壊.
- ・ 10月 巨人軍,長島茂雄引退.
- ・ 10月 佐藤栄作前首相,ノーベル平和賞受賞決定.

写真提供:名古屋第一赤十字病院 西山忠夫氏

第14回日本臨床細胞学会秋期大会(1975年)

Since 1956

1975年10月18日 栃木会館大ホール (栃木県)



学会長 信田重光

学会トピックス

特別講演	大腸細胞診の現況	渡辺 晃 先生
特別講演	Aspiration cytology in clinical medicine	Nils Stormby 先生
特別報告	改訂された「肺癌細胞型分類」について	肺癌細胞診判定基準改訂委員会
シンポジウム	子宮頸部Dysplasiaをめぐる今後の諸問題	司会: 栗原操寿 先生, 天神美夫 先生
シンポジウム	胆道・膵・十二指腸細胞診のその後の進歩	司会: 村上忠重 先生, 奥井勝二 先生
シンポジウム	癌境界領域の細胞診とその組織学的背景	司会: 山田 喬 先生, 柴田偉雄 先生



1975年、こんなことがありました

細胞診指導医数 195名

細胞検査士数 584名

- ・10月 第15回サイトスクリーナー研究会で、「細胞診指導医とサイトスクリーナーのあり方について」のシンポジウムが行われる。
- ・12月 第8回細胞検査士資格認定試験が実施される。

- ・7月 沢松和子, 全英テニスで日本女性初の優勝(複)。
- ・7月 沖縄国際海洋博覧会開催(~51.1.18)。
- ・8月 日本赤軍, クアラルンプールで米・スウェーデン両大使館占拠, 日本政府に過激派7人の釈放要求, 5日出国を望む5人釈放。

第15回日本臨床細胞学会秋期大会(1976年)

1976年11月19日～20日 御堂会館 (大阪府)

Since 1956

学会トピックス



学会長 榎木 勇



特別講演	癌の細胞生物学	岡田善雄 先生
特別講演	ウイルスと癌細胞	石黒達也 先生
シンポジウム	細胞診自動化における問題点	司会:服部正次 先生
シンポジウム	細胞診における癌診断の形態学的基準とその考察	柴田偉雄 先生
教育研究部会	細胞診と病理組織 - 日常使われている用語統一について -	座長:天神美夫 先生
教育研究部会	尿路系腫瘍の細胞診	山田 喬 先生
教育研究部会	妊娠に合併する頸部異常, 特にdysplasiaについて	松尾美材 先生
教育研究部会	乳腺腫瘍の細胞診	上井良夫 先生
サイトスクリーナーのための顕微鏡写真展示		審査委員長: 山田 喬 先生

1976年、こんなことがありました

・12月 第9回細胞検査士資格認定試験が実施される。

・7月 第21回オリンピック・モントリオール大会。アフリカ諸国、人種差別問題でボイコット。

・9月 日本ビクター、VHSビデオを発売と発表。

・9月 台風17号、死者・不明163人、長良川決壊。

細胞診指導医数 218名

細胞検査士数 759名

写真提供: 関西医大滝井病院 松浪光代氏

第16回日本臨床細胞学会秋期大会(1977年)

Since 1956

1977年 9月30日 ~ 10月 1日 石川厚生年金会館 (石川県)



学会長 服部 絢一 様

学会トピックス

特別講演	消化器細胞診の回顧と将来の展望	春日井 達 先生
特別講演	アスベストと悪性中皮腫	北川正信 先生
シンポジウム	非癌性病変 特に炎症と再生および化生について	司会: 天神美夫 先生
シンポジウム	悪性リンパ腫の細胞像	司会: 木村禧代二 先生
教育研究部会・スライドカンファランス	細胞形態よりみた組織型推定へのアプローチ	司会: 高橋正宣 先生, 鈴木忠雄 先生, 平田守男 先生
教育研究部会・教育講演	検体別にみたスクリーニングの重要点の違い	田嶋基男 先生



1977年、こんなことがありました

細胞診指導医数 237名
細胞検査士数 912名

- ・ 8月 日本臨床衛生検査技師会主催第1回細胞検査講習会が実施される(参加者55名、全国研究班班長 竹内良三 氏、愛知県勤労者研修センター)。
- ・ 9月 第3回国際細胞検査士(CT, IAC)資格認定試験が東京で実施され、日本が合格者通算世界最多国となる(合格者通算556名)。
- ・ 12月 第10回細胞検査士資格認定試験が実施される。第10回より日本臨床病理学会、日本臨床細胞学会、日本臨床病理同学院の3者共催となる。
- ・ 12月 細胞検査士(CT, JSC)の日本臨床細胞学会への加入が義務づけられる。

- ・ 8月 エルビス・プレスリー死去。42歳。
- ・ 9月 王貞治選手(巨人)、通算756号ホームラン。(世界最高記録)。5日国民栄誉賞第1号受賞。

写真提供: 金沢大学医学部附属病院旧第三内科医局長

第17回日本臨床細胞学会秋期大会(1978年)

Since 1956

1978年11月22日～23日 日本都市センター (東京都)



学会長 栗原操寿

学会トピックス

特別講演	培養におけるヒト正常細胞および腫瘍細胞	奥村秀夫 先生
特別講演	悪性リンパ腫と細胞診	影山圭三 先生
シンポジウム	子宮体内膜癌の細胞診	司会:鈴木忠雄 先生
シンポジウム	集検における細胞診の問題点	司会:田嶋基男 先生
教育研究部会・教育講演	組織分類の定義と細胞診	司会:天神美夫 先生, 竹田繫美 先生
教育研究部会・技術研究	標本作製の技術研究	司会:坂井義太郎 先生, 安松弘光 先生
教育研究部会	サイトスクリーナーのための顕微鏡写真展示・コンテスト	審査委員長:山田 喬 先生



1978年、こんなことがありました

- ・ 8月 日本臨床細胞学会評議員選出方法が改定される。「医師以外は全評議員の5%までとする。理事は医師評議員から選出する。」こととなる。
- ・ 9月 第1回細胞検査士教育セミナーが開催される(世話人)野田起一郎.M.D, 松田実.M.D, 大阪).
- ・ 12月 第11回細胞検査士資格認定試験が実施される。細胞検査士合格者総数1,060名となり、最終目標3,000名のうち当面の目標数1,000名を達成する。

- ・ 7月 イギリスで世界初の体外受精児ルイズちゃん誕生, 医の倫理, 宗教の問題も絡み大論争に。
- ・ 10月 青木功, ゴルフ世界マッチプレー選手権で優勝。日本男子初の海外戦制覇。
- ・ 11月 東京・上野の結婚式場から集団コレラ発生。

細胞診指導医数 259名

細胞検査士数 1,060名

第18回日本臨床細胞学会秋期大会(1979年)

Since 1956

1979年11月21日～22日 御堂会館(南御堂) (大阪府)



学会長 野田起一郎

学会トピックス

特別講演	クロマチンの構造と機能に関する最近の知見	中西 宥 先生
教育講演	癌の cell cycle に関する最近の知見	太田和雄 先生
シンポジウム	諸臓器における化生と癌をめぐる諸問題	
シンポジウム	各種治療と細胞診	
教育研究部会・教育講演	体腔液の細胞診	谷本一夫 先生
教育研究部会・パネルディスカッション	情報過多または不足による誤判定例の検討	



会場風景



野田 起一郎先生



増淵一正先生

1979年、こんなことがありました

細胞診指導医数 277名
細胞検査士数 1,146名

- ・ 8月 国際細胞学会Tokyo tutorialが開催される。(ホテルニューオータニ,東京)
- ・ 9月 第2回細胞検査士教育セミナーが開催される。(世話人 野田起一郎,M.D., 松田実,M.D., 大阪)
- ・ 10月 国際細胞検査士(CT, IAC)資格更新継続の改訂がなされる。
4年毎に更新, 4年間に180単位 専任CT年25単位
日本臨床細胞学会総会への参加 20単位
日本臨床細胞学会秋期大会への参加 15単位
- ・ 12月 Dr. Papanicolaou の記念切手が全米で発行される。

- ・ 7月 ソニー「ウォークマン」第1号を発売。発売以来1億6000万台という驚異的ベストセラーに。
- ・ 10月 木曾御岳山,有史以来初の噴火。
- ・ 12月 日本電信電話公社(現:NTTグループ)が,東京23区で世界初のセルラー方式自動車電話のサービスを開始。自動車のバッテリーを電源として,車外にアンテナを取り付けた。

写真提供:近畿大学医学部 山本良子氏

第19回日本臨床細胞学会秋期大会(1980年)

Since 1956

1980年11月27日～28日 仙台市民会館 (宮城県)

学会トピックス

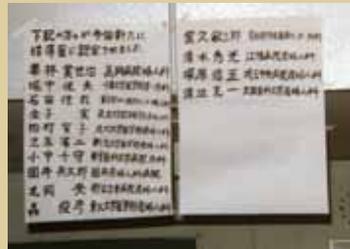


学会長 鈴木雅洲

会長講演	臨床における細胞診断学の限界と展望	鈴木雅洲 先生
特別講演	癌の転移機構をめぐって	佐藤春郎 先生
教育講演	非上皮性腫瘍の病理と細胞像	佐藤栄一 先生
シンポジウム	穿刺吸引細胞診をめぐって	座長: 信田重光 先生, 柴田偉雄 先生
シンポジウム	各種臓器の腺癌細胞の特徴	座長: 野田 起一郎 先生, 高橋正宣 先生
教育研究部会・教育講演	職業性膀胱癌の管理	石津澄子 先生
教育研究部会・教育講演	絨毛性疾患の細胞診	東岩井 久 先生



シンポジウムの1コマ



会場風景



示説会場



上段: スタッフルーム

1980年、こんなことがありました

- ・ 7月 細胞検査士に細胞診指導医変更の届出が義務付けられる。
- ・ 7月 厚生省公衆衛生局主催「がん対策打ち合せ会」の報告書が公表される。この中で、細胞診検体処理へスクリーニング～細胞診断における細胞診診断システムとして、細胞検査士と細胞診指導医のコンビネーションによる一連の作業方法が望ましいとされる。
- ・ 8月 第3回細胞検査士教育セミナーが開催される(世話人坂井義太郎,M.D, 上井良夫,M.D, 東京)。
- ・ 12月 第13回細胞検査士資格認定試験が実施される。

- ・ 9月 埼玉県所沢の芙蓉会富士見産婦人科の乱診・乱療が判明。19日理事長より政治献金受領の斉藤厚相辞任。
- ・ 10月 長島茂雄が巨人軍監督を辞任する。
- ・ 11月 巨人軍の王貞治、現役引退を発表。

細胞診指導医数 309名

細胞検査士数 1,353名

写真提供: 東北大学産婦人科教室

宮城県対がん協会 及川洋恵氏